

平成29年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

視 点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取 組 の 内 容		校 内 評 価		学校関係者評価 (月 日実施)	総合評価 (月 日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	<p>① 教育課程研究開発校として新科目公共の研究開発に取り組む。</p> <p>② 生徒の自立心を育てるとともに、社会参加の意欲を高め、問題解決能力を身につける教育課程を編成する</p>	<p>① 35週分の授業確保のための1時限55分間の授業実施を来年に控え、スムーズな移行を心掛けるとともに、生徒・保護者・中学生への周知も徹底する。また、2年目を迎えた新科目「公共」に関する研究を更に深めていく。</p> <p>② 生徒が主体的・対話的に深い学びができるような、コミュニケーション型授業の実践に努める。</p>	<p>① 今より5分長くなる授業に関して、集中力を保つための具体的な方法を実践校から情報収集するとともに、各教科で研究する。</p> <p>② アクティブな授業展開に関する研究を、関係グループを中心に引き続き継続し、年間10コマ以上の研究授業を実施する。</p>	<p>① 放課後の部活動や委員会活動、また会議等への影響をシミュレートし、対策を考える。</p> <p>② 生徒による授業評価の項目4「生徒の授業への意欲」及び項目10「生徒同士で話し合ったり意見を発表する機会があった。」の2項目において、「ほぼ当てはまる」以上の回答が80%を超えたか。</p>					
2 生徒指導 ・支援	<p>① キャリア教育の視点から、生徒の規範意識の醸成に引き続き取り組む。</p> <p>② 支援の必要な生徒に対して教育相談体制を確立する。</p> <p>③ 自己肯定感の向上に繋がる生徒支援方法を模索し、実現化する。</p>	<p>① チャイム前着席や携帯電話等電子機器の使用制限など、更なる規範意識の向上と生徒のモラル確立に取り組む。</p> <p>② 職員間で生徒の情報交換を一層密にし、支援を必要とする生徒により丁寧に対応する体制を作る。</p>	<p>① ここ2年ほどの間に増加してきている遅刻者数の減少を、今年度の学校重点目標として全生徒に周知し、その実現に向けて全職員で取り組む。</p> <p>② 様々な課題を抱えた生徒に対して、保護者と連携しつつ、どれだけ丁寧な指導をしていくか。</p>	<p>① 前年度に比べ遅刻者数及び遅刻指導数を10%以上減らすことができたか。</p> <p>② SCや外部の相談機関との連携がどれだけ取れるか、また、生徒の日頃の状態をどれだけ深く観察して素早く対応していけるか、数値には表せないが、大切に組みんでいきたい点である。</p> <p>③ 最近停滞している部活動加入率が前年を10%上回ったか。</p>					

3 進路指導 ・支援	<p>① 在学中のすべての教育活動を、キャリア教育の視点で展開する。</p> <p>② 生徒全員が自分の希望する進路先に進めるよう、入学時から計画的・継続的に指導する。</p>	<p>① 生徒に具体的な目標を持たせ自己肯定感を高めることによって、自分の将来の仕事を選べるような支援方法を確立する。</p>	<p>① キャリア支援の目標として、生徒の卒業後の進路に関して、フリーターはゼロ、また未定の者を限りなくゼロに近づける。</p> <p>② キャリア能力育成のためにはコミュニケーション・スキル向上が不可欠である。そのため面接指導のより一層の充実を図る。</p>	<p>① 3年生の進路を、本人の希望通り決定できたか。また、未定の者ゼロの目標が達成できたか。</p> <p>② キャリア・ガイダンス、三者面談、推薦説明会などの実施状況並びにその内容の充実度が確実にアップしているか。</p>					
4 地域等との協働	<p>① コミュニティスクールを新たに展開することで、更なる地域との連携体制を推進する。</p> <p>② 小中高の縦の連携を深め、地域に根差した教育を展開する。</p>	<p>① 学校説明会や文化祭の内容を更に充実させることで、外部からの来校者数を増やす。</p> <p>② 三ツ境養護学校や近隣小中学校に職員を派遣し、他校種との交流を通して連携を図る。</p>	<p>① 学校説明会や文化祭の充実、広報活動の活性化を通して、中学生が興味を持ってくれる学校作りを心掛ける。</p> <p>② コミュニティ・スクール立ち上げのための準備をしつつ、地域との連携を、防災訓練や通学路指導を通してより深めていく。</p>	<p>① HP の更なる充実を図り、閲覧者数の前年度10%アップを目指す。</p> <p>③ PTA と連携した校内整備活動（ペンキ塗りや思索の森清掃活動）への生徒参加状況が例年を10%以上上回ったか。また、三ツ境養護分教室との交流行事が少しでも増えたかどうか。</p>					
5 学校管理 学校運営	<p>① 職員の共通認識を深め、一体となった学校経営を推進する。</p> <p>② 何よりも安全安心に基づく、信頼される学校作りに専念する。</p>	<p>① 緊急時の生徒・保護者との連絡体制を整備する。</p> <p>② 事故不祥事防止に向けて改めて職員の意識の啓発に努める。</p> <p>③ 創立40周年事業として生徒に還元できる設備備品の充実を図る。</p>	<p>① 40年目を迎え、老朽化の進んだ校舎設備の再点検を行い、安全な学習環境を維持する。</p> <p>② 40周年事業として、特に体育館関係の備品の修理、購入を適正に実施する。</p>	<p>① 事故防止会議が適切に毎月実行でき、事故不祥事がゼロ件であったか。</p> <p>② 40周年事業として適正に予算の執行ができたか。（予算の誤差5%以内）</p>					